

育成モノづくり人材

Vol. 68

鳥取県立鳥取工業高校

人口約57万人と日本一人口の少ない鳥取県。工業高校を名乗る学校は、最盛期の5校から2校に減って



上原校長

しまった。鳥取県立鳥取工業高校はその1校として、県東部の教育を支える貴重な存在。2017年度の教育方針は「地域を支える人財、技術者の育成」。この言葉通り、地元の

地元就職、企業と接点多く

経済と社会を支える人材育成拠点として、同校の役割は大きい。端的に表れているのが求人だ。16年度は145人の卒業生に対し654人の求人が寄せられた。リーマン・シ

特に鳥取県内企業の業の相互理解を深める「実際の製品の溶接を体験した生徒からは、強い責任感を感じた」「職場の雰囲気を実感し就職への気持ちが強くなった」といった感想が寄せられた。より一般的なカリキ

【DATA】▷校長＝上原正樹氏
▷所在地＝鳥取市▷学科構成＝理数工学科、機械科、制御・情報科、電気科、建設工学科▷生徒数＝501人▷主要設備＝コンピューター数値制御（CNC）旋盤、マシニングセンター（MC）、自動制御実習装置など▷主な進路＝大鳥機工、ジャパンディスプレイ、大和建設、安田精工、吉谷機械製作所、川崎重工業、神戸製鋼所、中国電力など

午後約3時間を活用。生徒が協力先の企業を訪れ、実務を体験し単位として認定する。受講できるのは年に6、7人だが、



ユラムとしては、生徒体験する。91年に始まる全員が2年次に体験する形となった。2年（就業体験）がある。生全員が受けるとあって、9月の5日間にかけて、訪問する企業数は16年で55社に上る。

上原校長は「もともと元気で活発な校風」であり、部活動も含め「もっと活躍してほしい」と卒業生から言われる」と語る。地域の活気を支える同校生への期待は大きい。

（広島・清水信彦）
（金曜日に掲載）

昨年からは始めた企業説明会は昼休みを利用して実施

地元企業の理解と管理する教員の苦労がしのばれる。

16年から県内企業が昼休みの時間に同校を訪問し、生徒に企業PRを行う時間を設けた。同年は20社が訪問した。